

令和3年度教科用図書北諸県採択地区協議会

1 会議が開催された日時及び場所

○ 第1回北諸県採択地区協議会

日時：令和3年6月1日（火）14:00～15:00

場所：都城市役所南別館 第1会議室

○ 第2回北諸県採択地区協議会

日時：令和3年7月6日（火）14:00～15:00

場所：都城市役所南別館 第2会議室

2 出席者氏名

○ 北諸県採択地区協議会委員

No.	役名	職名等	氏名
1	会長	都城市教育長	児玉 晴男
2	委員（副会長）	三股町教育長	石崎 敬三
3	委員（監事）	都城市教育委員	赤松 國吉
4	委員（監事）	三股町教育委員	中村 俊郎
5	委員	都城市保護者代表	赤池 智和
6	委員	三股町保護者代表	藤田 兼二

○ 事務局（都城市教育委員会）


No.	役名	職名等	氏名
1	事務局 長	都城市学校教育課長	深江 祐史
2	事務局（書記）	都城市学校教育課指導主事	北村 義人
3	事務局（会計）	都城市学校教育課主幹	大久保 美千代

3 会議の議事の経過及びその結果の要旨 別紙

4 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

都城市教育委員会 学校教育課 指導主事 北村 義人

会長： 児玉 晴男 

副会長： 石崎 敬三 

第1回北諸県採択地区協議会 議事録

【協議】

令和3年6月1日

発言者	発言内容
事務局	<p>【議長選出】について 議 長：児玉 晴男 都城市教育長</p>
事務局	<p>【役員選出】について 会 長：児玉 晴男 都城市教育長 副 会 長：石崎 敬三 三股町教育長 監 事：赤松 國吉 都城市教育委員 中村 俊郎 三股町教育委員</p>
会長	<p>【事務局長、書記、会計の任命】について 事務局長：深江 祐史 学校教育課長 書 記：北村 義人 指導主事 会 計：大久保 美千代 主幹</p>
事務局	<p>【採択替え】について 本年度においては、自由社の「新しい歴史教科書」が、令和2年度に文部科学大臣の検定を経て、新たに発行されることとなったことから、無償措置法施行規則第6条第3号により、中学校社会（歴史的分野）に限り、採択替えを行うことが可能となった。 本地区の生徒の実態に合った、よりよい教科書を採択するために、昨年度の研究の成果を活かしながら、本年度は、自由社を含めた8者について改めて研究し、採択替えを行うこととなる。 ただし、8者のうち、「学び舎」（まなびしゃ）については、昨年度、見本本の送付がなく、研究できなかつたため、本年度も対象から除外する。</p>
会長	<p>昨年度の研究の成果を活かしながら、本年度は、自由社を含めた7者について研究を行うとのことだが、具体的にはどのように研究を進めるのか。</p>
事務局	<p>まず専門委員が、昨年度の概評及び総評をもとに、改めて6者の教科書の特徴を確認する。そして、本年度は、自由社について、その特徴をまとめ、概評及び総評に追記する。これらをもとに、第2回目の採択地区協議会では、自由社を含めた7者について、その特徴を改めて説明する。</p>
会長	<p>採択替えについて承認してもよろしいか。</p>
委員	<p>異議無し。</p>

発言者	発言内容
会長	<p>【事業計画】について 提案どおり</p>
会長	<p>【予算案】について 提案どおり</p>
会長	<p>【専門委員の委嘱】について 提案どおり</p>
事務局	<p>【教科書採択の観点案】について 県の作成した観点1から観点3に加え、地区の実情に応じた観点として、本地区の「生徒の実態上の課題」をもとに、観点4を設定している。「生徒の実態上の課題」は、本地区の教職員からの意見を集約したものである。 昨年度は、この4観点をもとに研究を行っている。昨年度の研究成果を活かすとともに、透明性、公平性を確保するため、本年度の研究においても、この4つの観点をもとに研究を行うことを提案する。</p>
会長	<p>提案どおりでよろしいか。</p>
委員	<p>異議無し。</p>
会長 事務局	<p>【情報公開】について 昨年度と同様に、議事録の全面公開で提案する。 提案どおり</p>

社会（歴史） 報告 質疑	
発言者	発言内容
事務局長 専門委員長 事務局長 事務局長	<p>社会の歴史の研究成果について、報告を求める。</p> <p>(報告)</p> <p>委員に見本本の閲覧を促す。</p> <p>委員より質問を受け付ける。</p> <p>(質疑応答)</p>
委員	<p>生徒自らが課題を追求するような教科書があるか尋ねたい。</p>
専門委員長	<p>ほとんどの教科書は、単元を通して課題を探求していく構成になっている。しかし自由社は、そのような構成になっていない。</p>
委員	<p>現在、使用している東京書籍の教科書について、生徒や先生方から、何か困ったことや使いにくいという声は聞かれるか。</p>
専門委員長	<p>「見方・考え方」の欄に具体的な発問が記載されるなど、前回より工夫があり、使いやすくなったという声は聞いている。今のところ、困ったという声や使いにくいという声は聞いている。</p>
委員	<p>太平洋戦争における日本の植民地や占領地への政策について、各者はどのように記載しているか。</p>
専門委員長	<p>全体として、植民地や占領地の人々も労働力や兵力として動員されたこと、植民地における強制連行が記載されている。</p> <p>占領地では、日本軍による植民地解放への期待に反して、日本の支配に対する抵抗運動が弾圧されたことが記載されている。</p>
会長	<p>具体的に各者どのような史料や文章の記載があるか。</p>
専門委員長	<p>東京書籍は、鉄道建設、東南アジアでの日本語教育の写真を掲載している。教育出版は、鉄道建設の写真を掲載している。</p> <p>帝国書院は、インドネシアで使われている写真を掲載している。</p> <p>山川出版社は、本文の注釈に戦地で設けられた慰安施設（従軍慰安婦）を記載している。</p> <p>日本文教出版は、本文の注釈に、ベトナムでは凶作と重なり飢えで亡くなる人が多数と記載している。</p>

社会（歴史） 報告 質疑

発言者	発言内容
	<p>育鵬社は、義勇軍がつくられたこと、大東亜会議が開かれたこと、鉄道写真を掲載している。</p> <p>自由社は、日本軍を解放軍として迎えたインドネシアの人々についての記述があり、植民地や占領地の政策がアジアの人々に貢献した部分を多く記載している。</p>
委員	教科書によって太平洋戦争と大東亜戦争という記載があるが、違うのか。
専門委員長	同じ戦争のことを指している。
委員	各者、教科書で力を入れている部分は異なるのか。
専門委員長	基本的な学びの構成は同じだが、力を入れている部分は各者それぞれである。
委員	教科書に QR コードが掲載されているが、実際に授業ではどのように活用されるのか。
専門委員長	生徒用の 1 人 1 台端末で QR コードを読み取って、動画を視聴したり、問題に取り組んだりしている。
会長	QR コードの充実度について、各者の特色はどうなのか。
専門委員長	<p>QR コードの数は、東京書籍 6 箇所、教育出版 7 箇所、山川出版社 11 箇所、帝国書院 26 箇所、日本文教出版は巻頭に 1 箇所ある。自由社、育鵬社には QR コードはない。</p> <p>なお、東京書籍と日本教育出版は、巻頭の QR コードを読み取って複数のコンテンツにアクセスできる。</p>

社会（歴史） 協議

発言者	発言内容
事務局長	では、社会の歴史の選定に入るので、会長に司会をお願いする。 (協議)
会長	社会の歴史について御意見をいただきたい。
委員	確認したい。東京書籍と自由社の2者のどちらかを選ぶのではなく、7者から1者選ぶのか。
会長	そのとおりである。7者から1者選ぶ協議をお願いしたい。
委員	生徒が1人1台ずつ端末を持っている環境で、探究的な学習を進めるために、QRコードの数は非常に重要であると考えます。
委員	蘇我氏を減ぼした内容について、自由社49ページと東京書籍38ページで比較すると、自由社は非常に生々しい絵を使っており、生徒に与える影響を懸念する。指導には十分な配慮が必要である。
委員	自由社以外の教科書は、単元を通して課題を探究していく構成になっており、主体的・発展的な学びにつながるようになっている。 特に、東京書籍は、様々なチャート等を使って、学習を深めようとする工夫が見られる。 自由社の教科書は、1つの事象についていろいろな史料が掲載されており、専門書のような印象を受ける。調べ学習のページはあるが、結論が掲載されており、主体的・発展的な学びにつながっていくのか疑問である。
委員	自由社は、太平洋戦争について、日本側の視点に立って記載されている印象を受ける。一方、東京書籍は、日本側だけでなく、植民地や占領地の人々の視点にも立って、バランスよく記載されている印象を受ける。
会長	これまでの協議を踏まえると、東京書籍と自由社の2者を比較して協議した方がよいと思うが、よろしいか。
委員	異議なし。
委員	教科書のキャラクターも重要である。東京書籍の方が生徒にとって親しみやすいのではないか。

社会（歴史） 協議	
発言者	発言内容
委員	東京書籍は、自由社と比べて、歴史的事象についての描写がとても丁寧であり、わかりやすい。
委員	教科書の重さも重要である。自由社の方が東京書籍より約100g重い。
会長	歴史の選定に入る。（挙手で確認） 東京書籍6名となった。歴史は東京書籍に決定する。